据付説明書

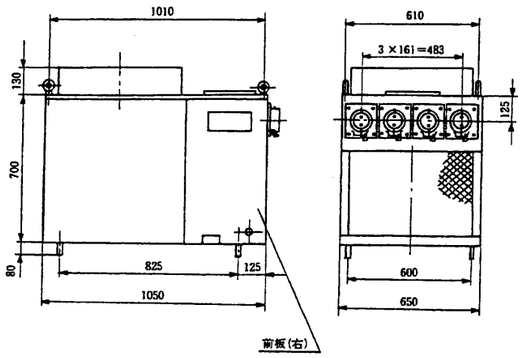
スポットエアコンMD-80TED-(L)の据付に際しては、下記の要領に従って設置してください。

〔1〕据付の前に

次の付属品を確認してください。

1．吹出口基フランジ	× 4	
2．黒色ネジ	× 20	
3．止メバンド	× 4	
4．リモコンスイッチ	× 1	
5．樹脂止金	× 1	
6．壁取付板	× 1	
7．木ネジ	× 4	
8．取扱説明書	× 1	
9．保　証　書	× 1	
10．ガラス管ヒューズ	× 1	
11．圧着端子(2mm²電線用)	× 3	使用電源電線サイズに合わせて利用ください。
12．圧着端子(3.5mm²,5.5mm²電線用)	× 3	
13．シール材(KE45)	× 1	
14．吹出ダクトカバー	× 4	

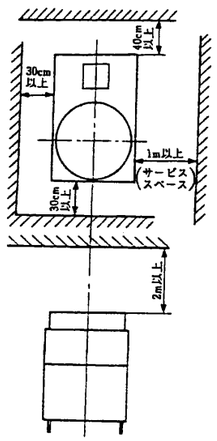
〔2〕外形寸法



〔3〕据付場所の選定

据付場所の良し悪しが、スポットエアコンの冷房効果、寿命を大きく左右します。お客様の意向を充分くんだ上で、下記注意事項を参照し、最も良いと思われる場所に据付てください。

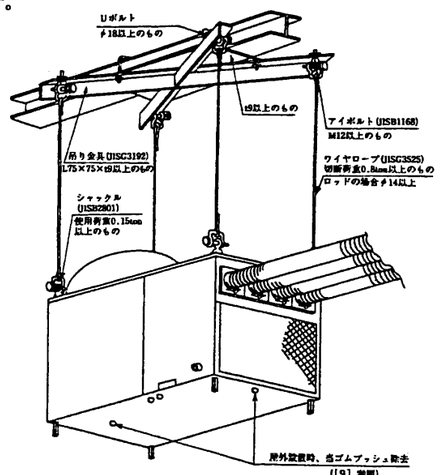
1．蒸発器および凝縮器の、吸込口、吹出口は、絶対ふさがないようにしてください。(右図参照)
2．保守、サービスが簡単にできる場所を選び、右図に示すサービススペースを確保してください。
3．高温熱源および熱風のこもる場所は避け、風通しが良く塵埃の少ない場所を選んでください。
4．海岸の潮風のあたる所、および腐蝕環境では、錆、腐蝕が発生しやすいことを、客先に了解をとってください。
5．ふく射熱のあたらない場所を選んでください。
6．可燃ガスの漏れる恐れのないところを選んでください。
7．屋外設置の場合、運転音や温風が隣家などのめいわくにならないところを選んでください。



〔4〕機械本体の据付

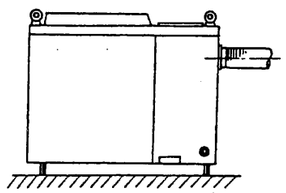
1）天吊りの場合

1．天吊りの場合には、図に示す方法など、梁、吊り金具に充分なる強度(本体重量137kg、安全率6以上)のあることを確認してください。
2．ワイヤロープには、傷、潰れ等がないものを、使用してください。
3．Uボルトは、梁の形状に合ったものを使用してください。
4．締めつけには必ずダブルナットを使用してください。
5．ワイヤロープ(ロッド)は垂直吊りしてください。
6．アイボルトには、大きな締付力を与えないでください。
7．アイボルト、吊り金具に荷重が片寄ってかからないように注意してください。
8．据付後、月に一度はボルトの緩み、ワイヤロープの伸び等を点検してください。
ボルト等が緩んだままで使用されると危険です。
ワイヤロープが伸びるとドレン排水が流れにくくなることがあります。



9．本体は、前面(ドレン配管側)がわずかに下になるように据付てください。逆にしますと、ドレンの排水が悪くなります。
注）アイボルトをはずして吊りボルト(棒状)をねじ込む吊り方はしないでください。機械の始動、停止時に生じる揺れが吸収できなくなります。

2）床置きの場合



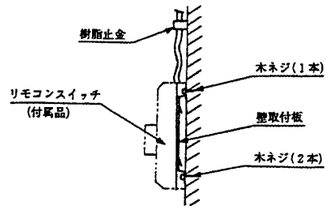
1．本体付属の脚を利用して床に置くことができます。
2．本体の重量・振動に耐え、運転音が増大しないようしっかりした場所を選んでください。
3．本体が水平になる様に置いてください。
4．基フランジ、ダンパは、むやみに触れないようにしてください。
5．水はけのよい所に設置してください。

〔5〕ドレン水配管

1．配管は下り勾配にしてください。又、トラップはドレン配管の出口(末端)でとってください。
2．配管は折れたり脱落しないよう止め金具などで固定してください。
やわらかい材質のホースは、曲げ部分でツマリを生じることがありますので注意願います。
3．配管終了後、ドレンパン底部に少しずつ水を注ぎ、確実に排水されることを確認してください。
4．ドレン配管の接続は、本体のドレン管をパイプレンチ等で固定して行ってください。

〔6〕リモコンスイッチの取付け

リモコンスイッチは、付属の壁取付板を使用して、壁、柱等に取付けてください。リード線の長さは、4mです。

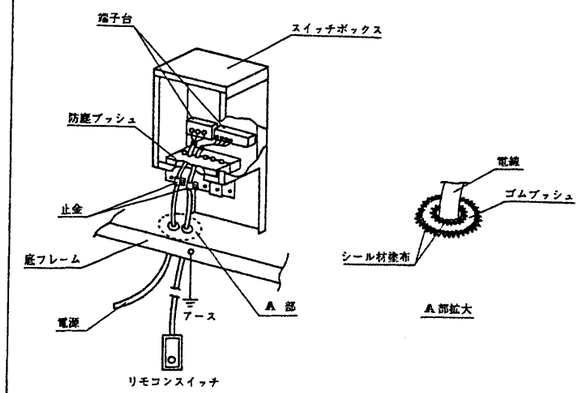


リード線は、止金で止めてください。
機械本体を屋外へ設置する場合でも、リモコンスイッチは屋内か、雨のかからない場所に取付けてください。また、リード線の壁貫通部にはシール材を塗布し、リード線を雨水が伝わってリモコン本体に侵入せぬよう対策してください。

〔7〕電気配線工事

電気工事は、認定を受けた電気工事店(登録電気工事業者)でなければ施工できません。

1．電源は専用の分岐回路を設けてください。
2．配線の太さ、分岐回路の電流容量は、「電気設備技術基準」によって決まっています。
技術資料を参照してください。
3．工事に際しては、必ず漏電遮断器を設置してください。
4．電源の継ぎ込み
4-1.本体より前板(右)をはずし、スイッチボックス蓋を取りはずします。
4-2.電源用配線に本機付属の圧着端子を取付けて、底フレームの電源取入口を通し、さらにスイッチボックスの防塵ブッシュを通して配線図に従い端子台に接続します。
4-3．電源電線は必ず止金で固定してください。
4-4．電源継ぎ込みと同時に底フレームのアース端子より必ずアースを取ってください。アース端子はスイッチボックス内にも設けていますので、そちらを利用されてもかまいません。
5．リモコンリード線も同様に、底フレームと防塵ブッシュの取入口を通し、配線図に従い、端子台に接続します。
リモコンリード線は、必ず止金で固定してください。
6．電源電線、リモコンリード線の接続が終わりましたら、各線の底フレーム貫通部に、付属のシール材を塗布してください。



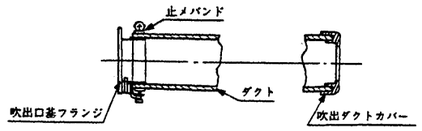
標準配線器具明細(内線規程JEAC8001(最新のもの)による)

		MD−80TED	MD−80TED−L
開閉器容量		30A	30A
ヒューズ容量		30A	30A
漏電遮断器		30A 30mA 0.1sec以下	30A 30mA 0.1sec以下
アース(銅)		1.6mm以上	1.6mm以上
電源電線(金属管)	最小太さ	1.6mm	1.6mm
	最大こう長	14m	14m

(最大こう長は電圧降下2%として計算しました。)

〔8〕ダクトの施工

1．本機には必ず別売の延長ダクト(KCD125タイプ)を使用してください。
標準のダクト接続数は10m×4本です。
ダクトは吹出口基フランジに止メバンドを用いて取付けてください。

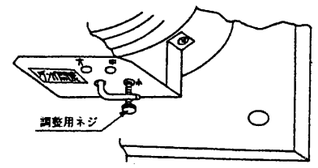


2．ダクトを取付ける際、吹出口基フランジに力がかからないようにしてください。
3．ダクトは、壁面あるいは天井面に適宜固定してください。
4．ダンパは、ダクトの長サ、および各々のダクト長さが異なる場合に、風量確保、風量配分調節用として使用します。
5．ダクト長さには制限があります。ダクト長さとダンパ開度の選定の目安には下表を利用ください。

ダクト本数		4
ダクト長さ	1m	(小,小,小,小)〜(中,中,中,中)
	5m	(小,小,小,中)〜(中,中,大,大)
	10m	(小,小,中,中)〜(大,大,大,大)
	15m	(小,中,中,中)〜(大,大,大,大)
	20m	(中,中,中,中)〜(大,大,大,大)
1本当り目安風量 m³/min (50/60Hz)		4.3〜5.5/5.0〜6.4

表の見かた
例)ダクト本数4本・15mで使用の場合
ダンパ開度の組合せは、(小,中,中,中),(小,中,中,大)
(小,中,大,大),(小,大,大,大),(中,中,中,中),(中,中,中,大)
(中,中,大,大),(中,大,大,大),(大,大,大,大)の9通りです。
1本当りの風量の目安は4.3〜5.5/5.0〜6.4m³/min(50/60Hz)となります。

6．ダンパ開度の調整は、右図の調整用ネジを操作して行ってください。銘板の「大」.「中」.「小」はダンパの開度を示します。



7．吹出口の位置が決まりましたら、先端に吹出ダクトカバーを差し込んでください。

〔9〕水抜穴の利用

屋外に設置する場合は、雨天時の水はけを良くするため、底面にあるゴムブッシュ2個を除去してください。
(〔4〕の図参照)

〔10〕据付が終わりましたら取扱説明書に従って取扱いの方法をお客様によく説明してください。